

1. 調査報告概要表

作成日平成19年7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2672400062
法人名	社会福祉法人 太陽福祉
事業所名	グループホームいきがい
所在地	京都府京丹後市久美浜町湊宮467番地60 (電話)0772-83-2114

評価機関名	市民生活総合サポートセンター		
所在地	大阪市北区天神橋二丁目北1番21号 八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年7月17日	評価確定日	平成19年9月14日

【情報提供票より】(19年6月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年5月9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

(2)建物概要

建物構造	RC造り瓦葺		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,800 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1500 円		

(4)利用者の概要(6月18日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	0名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	74歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	京丹後市立 久美浜病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

久美浜湾に近い小高い丘の上に位置し、敷地内には菜園もあり非常にのどかな雰囲気があります。車の通りも少なく、散歩するには最適な環境です。海山園という母体の施設と同じ敷地内に建てられており、日頃から様々な場面で交流が図られています。ホーム内も明かり窓が大きくとられており明るく清潔な雰囲気で整理整頓されており、利用者の表情は明るく日頃のケアの良さが伺われます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念について、施設独自のものは作られています。継続的な研修計画は立てられていない。周辺施設からの協力、働きかけが十分ではない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価についてはスタッフ全員で取り組み、運営推進会議の議題に取り上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は月に1, 2回開催されており、自己評価の件を議題にあげたり、そこでの意見を持ち帰り、職員会議等で検討し、ケアに反映させています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入所時・面会時等に意見を聞くよう心がけていますが、ご意見箱はあるが「意見箱」等の表記されておらず、日頃の意見等は出しにくい状況です。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	母体である施設の行事に校長先生・ご家族・地域住民の参加はあるが、地域の活動に参加することはなく、地元の住民と交流する機会は少なく感じます。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定に盛り込まれているが、事業所独自のものではない。	○	理念はその事業所の大きな柱となるので、スタッフで検討し、いきがい独自の理念を作られることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が共有できるよう1年に1回は確認しあっているが、グループホーム独自のものではない。	○	事業所独自の理念を作り上げ、日々のケアに反映されるよう取り組まれることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体である施設主催の夏祭りに、校長先生、ご家族、地域住民の参加はあるが、地域の行事・活動に参加することはない。	○	地域で行われるさまざまな事業へ参加し、地域との関係が構築されるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価を運営推進会議の議題に取り上げ、自己評価についてはスタッフ全員でやっており、意義については全員が理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は月に1、2回行っており、そこでの意見を持ち帰り職員会議等で検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京丹後市という大きな組織になり、なかなか行き来する機会がないが認知症介護をしている家族を中心に、市ぐるみで勉強会を持ちたいと思っている。	○	市町村と連携をとりながら事業を展開させ、よりよいサービスの向上にむけて取り組まれることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月送られる便りは利用者の暮らしぶりが手書きで細かく書かれており、温かみが伝わってくるものである。	○	食事量、バイタルチェック等の記録についても報告すれば、より信頼度が高まるのではないのでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時・面会時に意見を聞くよう心がけている。玄関にはご意見箱が置かれているが表に何も書かれておらず、何なのか分かりにくい。	○	ご意見箱だということが一目で分かるように工夫されることが望まれる。また家族の意見・思いを把握するための指標として、アンケート等により満足度調査等を行うことを期待する。
9	18	有()円) 無 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	大幅な異動があり1、2週間の引き継ぎを行い、利用者へ対しての影響は多少あったが動揺を最小限に抑えている。	○	利用者の動揺等を最小限にするため、異動等に関して引継ぎ期間等をさらに考えられる事を期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画がなく、その都度参加しているが回数は少ない。	○	法人の行う研修会も利用しながら、スタッフ全員が平均して参加できるよう段階に応じた研修計画をたてることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に3、4の事業所があるが交流する機会がない。	○	市内のグループホーム間でネットワーク作りをし、同業者の交流が図られることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所制度はないが見学制度はあり、スタッフと話し合いの機会を設け納得し入所に至る。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とスタッフの距離が近づくようなケアをするため、管理者が指導に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時・面会時・電話等で希望を聞き、その都度検討、記録をし、スタッフで共有するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス・3ヶ月に1回のモニタリングを通してできる限り反映するようにしている。	○	モニタリングについては3ヶ月に1回行われているが、記録を残すことが望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合はモニタリング後、現状に応じた計画を作成するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じてきめ細かいケアを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的ではないが必要に応じて嘱託医の往診があり、母体施設の看護師の支援もある。また訪問歯科も利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、家族、利用者からの意見は聞けていない。	○	重度化・終末期の対応については早い段階で検討し、方針を明らかにし、医師・スタッフ間で共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しての言葉や対応に関しては日頃から指導しており、目につく時は注意をしている。個人情報の記録物については鍵付きの書棚に収納されているが鍵はかけられていない。	○	書庫での保管に関し使用していない時は鍵をかけておくことが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンをスタッフが把握しておりタイムスケジュールにはこだわらず、心身状況にも配慮しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら、スタッフが1週間ずつ献立をたてている。また利用者の状況に応じて、盛り付け等の準備を一緒にできるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じて、毎日入浴できる体制がとられている。入浴時間は14:00～17:00までとされている。出来る限り同性介助を行い、入浴剤を使用し、楽しみながら入浴できるように支援している。	○	夜間入浴についても検討されるよう期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴を生かし、魚をさばいたり、絵を描いたり、出来ることを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	企画書の提出は行っているが、数人が外出するのみである。	○	利用者一人ひとりの希望に合わせた外出支援が出来ることを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望があったり、スタッフの手が足りない時等、鍵をかけることがある。	○	やむを得ない明確な理由がある場合でも、予め同意書をとっておくことが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、併設施設の協力を得ながら避難訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については記録している。	○	母体の栄養士と連携をとり栄養バランスのチェックを受けるなど協力体制をとることが望まれる。また水分確保についても把握されるよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、天窓からの採光によりリビング全体が明るく、居心地よく過ごせる雰囲気である。	○	誰も観ていないテレビがつけっぱなしになっているので、BGMの利用を考えられてもいいのではないのでしょうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物の制限は無くタンス・いす等、馴染みのものを持ち込まれている。希望があれば、たたみの持ち込みについても対応出来る。また茶碗についても一人一人違うものを使用している。		